12 vol.558
DECEMBER 2021

あなたがいて、わたし、がある。

ゆうあい

特集

CROSSTALK 保護者さま座談会

函館青年寮前にて

昭和63年1月18日第三種郵便物認可　12月号　令和3年12月1日発行
発行日:偶数月1日／価格:1部160円／発行者:大場公孝／発行所:社会福祉法人侑愛会(北海道北斗市追分7丁目8番9号)

https://www.yuai.jp/
社会福祉法人侑愛会

社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

●発行者/大場公孝 ●発行所/社会福祉法人侑愛会/北海道北斗市追分7丁目8番9号 ●「昭和63年1月18日 第三種郵便物認可」

03

高齢化への対応

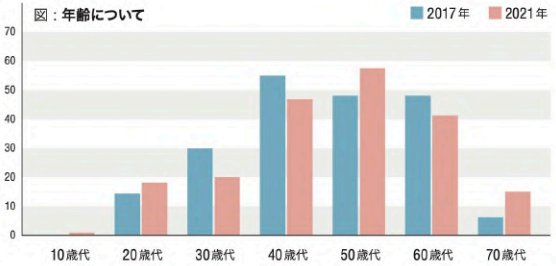
巻頭言 — Introduction —

ゆうあいの常置委員会の一つに地域生活支援委員会があります。グループホームをサポートする4つの事業所（サポートはまなす、サポートカーム、サポートかわつき、サポートすばる）の他、日中活動事業所等の職員が中心となり、グループホームを利用する方々が安全で豊かな暮らしが出来るよう、それぞれの事業所の現状や課題について、また地域生活に関わる制度改正やグループホームが新規開設された時には見学会を実施するなど、情報交換や学習の機会となっています。また委員会活動の中では、グループホームの実態調査（利用者の年齢や障害支援区分、日中活動や就労の状況、工賃・給料、そして生活費など）を行い、グループホームで生活している利用者の状況とその変化を把握するための基礎資料としています。下のグラフは、この実態調査における平成29年と令和3年の利用者の年齢分布を比較したものです。この5年間で年齢階層におけるピークは40歳代から50歳代へと推移し、また70歳代の利用者数が増加していることがわかります。グループホームを利用している方々の高齢化が進んでいること、また30歳代までの利用者数が減少傾向にあることから、今後より加速的に高齢化が進んでいくことが考えられます。この結果からも、この先を見据えた地域生活支援、地域における高齢期支援のあり方を検討していく必要があります。

現在グループホームには「介護サービス包括型」、「外部サービス利用型」、そして「日中サービス支援型」の3つの類型があります。「日中サービス支援型」は、高齢・重度化した利用者の方々を支えるために新たに創設された枠組みです。昼夜を問わず職員の配置が必要なことや短期入所を併設することも義務付けられています。より手厚いサポートの中で地域生活を継続して行うことのできる暮らしの場として、また地域で生活する方々の緊急一時的な宿泊の場として活用することが期待されています。

ゆうあいでは、指針２０２１で示されているように第4期5カ年計画の重点課題の一つとして「高齢知的障がい者の居住及び日中活動の整備」が位置付けられています。この課題を解決していくための取り組みとして、日中サービス支援型グループホームの開設を目指しています。今年度からその準備を進めていくために入所施設、日中活動事業所、グループホームの職員らによるワーキングチームを組織し、開設に向けて動き出しているところです。

利用者一人ひとりのニーズに応えていくためには、たくさんの選択肢が必要です。それは利用者の方々の暮らしにおいても同様だと思います。日中サービス支援型グループホームもその暮らしの場の選択肢の一つとなるよう、力を尽くしていきたいと考えています。



サポートはまなす　宮島 啓太
Miyajima Keita

●発行者/大場公孝 ●発行所/社会福祉法人侑愛会/北海道北斗市追分7丁目8番9号 ●「昭和63年1月18日 第三種郵便物認可」

CROSSTALK

保護者さま座談会

今回は、ゆうあいを利用する3人の保護者さま（児童施設、成人入所施設、成人通所施設）にお越しいただいて、座談会を開催いたしました。子育てや、ゆうあいとの出会いのエピソード、これからのこと等について語っていただきました。

Haruna Kazue
春菜 一枝 さま
ワークショップはこだて

Susa Fuminobu
須佐 史信 さま
おしま学園

Aihara Yumi
相原 由美 さま
ねお・はろう

ー本日は、よろしくお願いいたします。まずは、自己紹介をお願いいたします。

相原　相原です。家は函館にあるのですが、主人の仕事（新聞社）の関係で今は小樽に住んでいます。参加者のお二人とは顔なじみなので、ホッとしています（笑）。

春菜　春菜です。二人の息子がいますが、長男に障がいがあります。次男は、相原さんのご主人と同じように新聞社勤めをしています。

須佐　須佐です。医師をしています。発達障がいの診断などに携わっています。仕事のきっかけは、子どもが自閉症だったからです。

ーお三方は以前からお知り合いだったことを今日知りましたが、もう二つの共通点は、お子さまが知的障がいのある自閉症であること。次に、お子さまのことについてご紹介をお願いいたします。

相原　29歳の息子がいます。幼い頃から呼んでも振り向かないので、耳が悪いのかしらと思っていました。自閉症の診断を受けたあとは、転勤する先の療育センターにお世話になりました。忘れられない出来事は、4歳のときのこと。突然いなくなったと思ったら、車が走る三車線道路の真ん中を三輪車で横断していたのです。死と隣り合わせと感じた経験は、他にもありますね。

春菜　私の息子は27歳です。相原さんと同じように、危険なことが分からないので、心臓が止まりそうな思いを何度もしてきました。次男にミルクをあげていたときに姿が見えなくなったのですが、大きい道路の真ん中を歩いていたのです。危ない場所、とくに高いところが好きでしたね。

須佐　息子は18歳で、おしま学園で生活しながら七飯養護学校の分校に通っています。重度の知的障がいと自閉症があります。幼い頃の極めつけのエピソードは、小学2年生のとき、函館山の麓に家があるのですが、ちょっとした際にいなくなりました。夕方に警察に依頼をして100人がかりの捜索となりました。深夜2時に山の上で見つかったときには体温は32℃、病院に運ばれたあと幸いにも快復しました。自閉症特有の身につける物への過敏さがあって、残雪ある寒い時期だったのですが、薄着でした。肝を冷やしたのを憶えています。

ーお話に出てきたエピソードを伺っただけでもヒヤッとする思いとなりましたが、お子さまの現在について少し伺わせてください。

相原　以前ですと、外出時には暴れたりして周りの目が気になって家に閉じこもりがちでした。今では、函館の家に帰省したときは外出を楽しむことができるようになって、親としてとても楽しいです。

春菜　些細なことでも出来るようになって成長が感じられたときは、涙が出るほど嬉しい思いになることがあります。中学生くらいから、親子間の出来事や母の気持ちを日記に書いてます。それを、息子に見せることで相手の気持ちを知り、息子も自分の気持ちに気付くことが出来るようになると勧められたからです。最近では、「嬉しい」「悲しい」とか気持ちを表現できるようになってきました。日記は10年以上続け、100冊以上になりました。

須佐　うちの息子は温泉が大好きで、家に帰省するたびに、温泉巡りをしています。温泉の職員さんとも顔馴染みになりました。そっと地域のなかで見守って下さる方がいるのは、有り難いことですね。感情表現というところでは、数年経ってだいぶ意思を伝えることが出来るようになりました。以前は、些細なことで泣いたり笑ったりしているように見えても、その理由は分からないことが多かった。

ー次に、ゆうあいの福祉サービスを利用することになったいきさつなど教えてください。

相原　おしま学園で当時、実施していた母子訓練事業への参加がきっかけです。小学1年生のときに、親子5人で参加しました。そこで、初めてTEACCHに出会いました。家

●発行者/大場公孝 ●発行所/社会福祉法人侑愛会/北海道北斗市追分7丁目8番9号 ●「昭和63年1月18日 第三種郵便物認可」

話に花が咲いて、あっという間の時間でした。

でもTEACCHを実践しようとしたのですが、うまくできず、第二おしま学園（現ねお・はろう）に再び入所することになりました。

春菜　私も母子訓練事業に参加しました。長男の障がいは3歳で分かり、4歳のときに紹介されました。当時は何とかしたいと必死の思いでした。計3回参加しました。その後、ゆうあい幼稚園に入園しました。北海道教育大学附属特別支援学校を卒業したあと、家から通ってワークショップはこだてで軽作業をしています。

須佐　2歳のときに、ゆうあい会石川診療所で自閉症と診断を受けました。おしま地域療育センターの風っこ組、つくしんぼ学級に通いました。自閉症の息子を母親が家で支えることがだんだんと難しくなってきて、小学6年生のときにおしま学園に入所しました。

ー現在の想いや、これからについてお考えのことがございましたら教えてください。

相原　（涙ぐみながら）、第二おしま学園に初めて入所した小学1年生の頃、親と離れるときの本人のなんとも言えない表情を思い出すと、少し悲しい気持ちになることもありましたが、ホッと安心したのも事実です。

春菜　将来的には、グループホームで生活し、通所施設に通えたら良いなと思っています。やはり一番の関心事は、親亡き後ですね。時々の利用というのは難しいと思うので、生活の場所を変えるなら一気に、というイメージです。感覚過敏などの特性があるので、生活を支える支援者には知識やスキルも期待しています。

須佐　短期入所をよく利用していたこともあって、入所はスムーズでした。入所後は、母親も私も少し安心しましたし、落ち着いた生活が可能となりました。これからの望みとしては、穏やかに落ち着いた生活をしてほしいというのが一番です。フラッシュバックを起こすことも多いので、それを見るのは辛いですね。でも、だいぶ意思表示できるようになってきましたので、少しずつですね。

春菜　フラッシュバックは、本当に辛いですよね。いつ、どこで起きるか分からないから、親もトラウマになりますよね。

相原　突然、スイッチが入ってしまう感じ。家にいたときは、パニックになってきょうだいがあおりを受けることもあって、気の毒に思うこともありました。

ーゆうあいの魅力や特徴、課題などについて感じていることがありましたら、お願いいたします。

相原　今の建物は個室になったので、安心しています。以前は、同室の方と喧嘩になることもありました。今は親が元気なので外出にも連れて行ってあげられますが、個別対応での外出の機会なども多くなってくれれば嬉しいなと思っています。

春菜　施設をみていると、年々個別対応の割合が高くなっていることを感じています。職員がオーバーワークになっていないか心配になることがあります。職員の配置は十分ではないでしょうから…。あと、障がいに対する偏見が子供のころに植え付けられてしまうように感じるケースが多いことを憂慮しています。幼い頃からの障がいに関する教育について、ゆうあいで担っていただけないものだろうかと考えたりします。

須佐　私も職員のオーバーワークは気になっていますね。ゆうあいの職員は、自閉症の知識もそうですが、穏やかで優しい人柄の方が多いですね。普段から、施設での様子を丁寧に伝えてくださるのは有り難いと感じています。コロナで難しくなっていますが、以前は酒席で懇談する機会があったりして、楽しかったですね。あと、今、息子は高校3年生です。ゆうあいの成人施設は狭き門になっているので、これからの進路が今一番の心配事ですね。あと、偏見の問題についてですが、まずは身近な人に知ってもらうことが大事なことと思っています。自宅がある谷地頭は、理解のある人が多くて助かっています。民生委員の方にも、「何かあったらお願いします」と家の事情を伝えています。難しいこともありますが、今後も根気よく地域の人たちに障がいについて知ってもらう機会を作っていきたいと考えています。

自分のことは自分で。いつもの日課、洗濯もの干し。

ー本日は長時間にわたって、ありがとうございました。最後に、一言お願いいたします。

相原　いつもは、ゆうあいでお世話になっているから安心していますが、もし息子がコロナに感染して「しばらくは自宅でお願いいたします」となったら、どうしようという思いに駆られることがありました。これからも、職員と連携を深めて自宅でも落ち着いた暮らしが出来るように努めていきたいと思っています。

春菜　息子は休日に、漢字の書き取りをもう15年も続けています。今では、小学2年生レベルにまで上達しました。障がいの有無に関わらず、人間は無限の可能性を持っていて、何歳になっても勉強、成長できるものと思っています。周囲の方たちも、一人ひとりの可能性を信じて支援をしていただけると嬉しいなと思います。

須佐　私自身のことですが、50歳を過ぎてから俳句にはまっています。息子と関わる日常を詠んでいます。障がいのある人と関わる際には、俯瞰的な視点で、適度な距離を取って関わることが大切のように感じています。そうすれば、支える側の人間も楽になっていくのではないかなと思うことがあります。

進行：櫻井 雅悦、丸山 貴子（ゆうあい編集委員）
日付：令和3年10月23日
場所：函館青年寮
文責：小谷 高大

社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp

社会福祉法人侑愛会
学校法人ゆうあい学園
www.yuai.jp